

# 1 部

学習サポート

## 各種申込締切について

- 『試験・スクーリング情報ブック2016』にてご確認ください。
  - ・ p. 4～5→学年暦　・ p. 14～17→通信教育部カレンダー
  - ・ p. 45～48→社会福祉士　演習・実習科目関連締切等
  - ・ p. 49～51→精神保健福祉士　演習・実習科目関連締切等

## 8 / 8～9 / 23 の追加・変更点

- スクーリング開講時間（詳細は本冊子 p. 28参照）
  - ・ 9 / 17・18 「★■福祉法学」（仙台）  
（変更後） 9 / 17 10 : 30～17 : 40　9 / 18 8 : 50～12 : 00
  - ・ 9 / 18・19 「更生保護制度論」（仙台）  
（変更後） 9 / 18 12 : 50～17 : 40　9 / 19 8 : 50～14 : 20
  - ・ 9 / 17～19 「◆福祉法学」（仙台）  
（変更後） 9 / 17 10 : 30～17 : 40　9 / 18 8 : 50～17 : 40  
9 / 19 8 : 50～14 : 20

## 重要なお知らせ

- 「社会福祉援助技術演習C」スクーリング開講日の変更  
※実習免除者・来年度以降科目等履修生での実習希望者対象。  
※詳細は本冊子 p. 70参照。  
（変更前） H29. 1 / 28・29 → （変更後） H29. 2 / 4・5

# レポート課題の進め方

教員 MESSAGE

講師 石附 敬

## 1. はじめに～文章を書くことの悩み～

講義やゼミ、スクーリング等で学生からよく聞かれる悩みとして、「レポートをどう書いたらよいのか？」とうことがある。私見であるが、文章を書くことが好き、あるいは得意な人はごく一部ではないかと思う。多くの方は、文章を書くことに苦勞し、何らかの苦痛を感じているだろう。

皆さんは、レポートを作成する際にこのような経験をしていないだろうか。「1冊の本に影響されて、それを抜き書きしただけのレポートになってしまった」「一部分のみ詳細に書かれていて、それ以外の部分の内容が薄い、バランスの悪いレポートになってしまった」「考察が書けない」など。更に「提出日の前夜から慌ててとりかかった」「複数の課題を抱えているが、一つを終わらせないと次の課題にとりかかれぬ」といった経験もないだろうか。前者は、書くことが事前に決められていない状態から書き出した場合に、後者は課題の作業手順やスケジュールが管理されていない場合に、起こりがちな問題である。

以上のような悩みを抱えている方は、ぜひこれから提案する方法を試してほしい。本稿では、①文章作成のステップ、②スケジュール管理を中心にレポートの作成方法について述べる。

## 2. 文章作成のステップ

### (1) 事前知識を得る

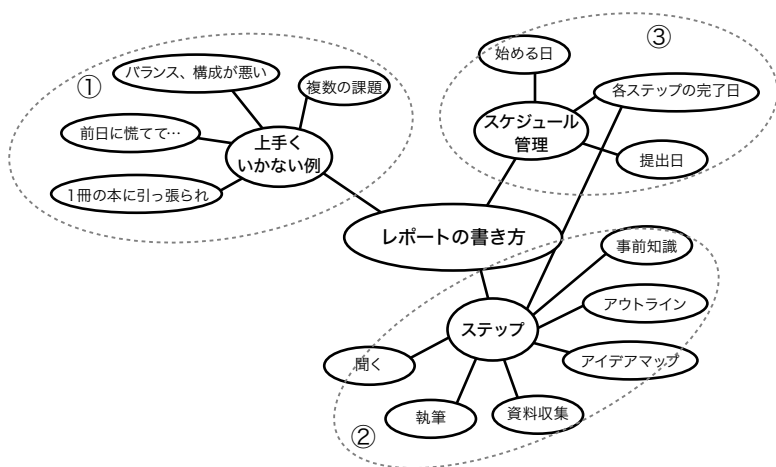
まず、レポート課題にはテーマが設定されている場合が多い。最初の段

階では、事前の知識が乏しい場合は、テーマに関係する教科書やその他の書籍を読んでおくことが必要である。書籍を選ぶ際は、なるべく理解し易い入門書が良いだろう。事前の知識を得ることで、課題についてのイメージや自分なりの関心や疑問を持つことができる。

## (2) アイデアを図にする

次の段階では、具体的なテーマ名を設定し、それに関して思いつくものを自由に書き出してみよう。図1は、本稿を執筆する際に、私が作成したアイデア・マップの例である。自分のアイデアを図に書き出すことで、レポートの内容についての構想が膨らんでいく。また、新たに資料を収集して情報を得る必要があるものが明確になっていく。アイデア・マップを見ながら、全体のバランス、字数制限や取り掛かれる時間、得られる情報量などを考慮して、レポートの内容を検討すると良いだろう。

図1 アイデア・マップの例



### (3) 資料を収集する

アイデア・マップの作成を通じて必要と思った情報を収集しよう。文献やその他の資料は、論文のデータベース（例えばciniiやgoogle scholarなど）や図書館の蔵書検索（opac）、インターネットの検索エンジン等を活用して入手することができる。情報収集の段階で新たなアイデアが浮かぶことがあるので、必要に応じて前のステップに戻って、アイデア・マップの修正を行うこともできる。

### (4) アウトラインを作成する（構成を練る）

具体的な情報が入手できたら、次にレポートのアウトラインを作成しよう。アウトラインとは、文章の具体的な構成を示すものである。レポートのタイトル、章、節等の見出し、さらに、各見出しに対する内容を箇条書きにまとめることで、アウトラインを見ただけでレポートの内容や論旨構成を理解することができる。ここには、考察部の見出しも入れて、調べたことを踏まえて、自分なりの考えも整理しておく。アウトラインを作成しながら、足りない情報に気付いたり、新たなアイデアが浮かんだりすることがある。その際は、必要に応じて前のステップに戻ることができる。

### (5) 文章にする

ここまでの段階を踏んだら、あとは文章にする。アウトラインに基づいて、箇条書きの文をつないだり、説明を付け加えたりしながら文章を膨らませていく。アウトラインの段階でしっかりと構成が練られていると、文章化しやすくなる。このステップでは、粗削りな文章でも、とにかく一度最後まで書き上げることを優先させて進めることが重要である。

### (6) 文章を磨く

初稿が完成したら、もう一度読み返し、「文章が流れているか」「わかりやすい表現になっているか」「誤字脱字がないか」「論旨が通っているか」などを点検し、必要に応じて修正を繰り返す。このステップに入る前に、2、3日間原稿を寝かせておいてから読み返すことで、より客観的に自分

の文章を評価することができるだろう。最後に文章を磨く段階は、コーヒーでも飲みながら、または公園のベンチに座りながら、楽しんで行うと良いだろう。

### 3. スケジュール管理

---

これまで述べた作成方法を実践するためには、余裕を持ったスケジュール管理が必要になる。また、複数の課題を同時に抱えている時には、それをするので、並行して複数の課題を進めていくことができる。

#### (1) カレンダーを準備する

まず、執筆スケジュールを書き込むためのカレンダーを準備しよう。家に余っているものや、インターネット等でフォーマットを入手することもできるし、手書きで作成しても良い。肝心なことは、課題専用のものを準備することである。

#### (2) 提出日と取り掛かる日を決める

カレンダーが準備できたら、第一に課題の提出日と取り掛かる開始日を決めて、記入しよう。複数の課題を抱えている場合は、時間がかかりそうなものは開始日を早めに設定し、短期間で完成しそうなものは逆に遅く設定するなどの調整をすると良いだろう。

#### (3) 各ステップの到達日を決める

開始日と提出日を設定したら、さらに、アイデア・マップ、アウトライン等の各ステップの到達日を設定しよう。これらを設定することで、作成手順が順調に進んでいるかを把握することができるし、安心して他の課題と並行して取り組むことができる。スケジュール表と、アイデア・マップ、アウトラインがあれば、途中で作業を中断しても、また続きから始めることができる。

## 4. おわりに

---

レポート作成の能力は、形や手順を身につけることで、上達することが可能である。字数の関係で、詳しい説明ができなかったが、レポート作成に不安を抱えている方は、今回紹介した方法を参考に、自分に合った方法を身につけていただきたい。

## スクーリング・アンケートより(1)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

### ●科学的な見方・考え方 大内 真弓 仙台

- ・レポートの書き方について確認できて良かった。今回の講義で学んだことをレポート作成に活かしたい。
- ・科目名だけで難しい教科だと思いこんでいた。こんなにレポートを書くにあたり役立つ科目なら、もっと早くから受講したかった。現在書かなければならないレポートがあるので、この科目で学んだことを参考に仕上げていきたい。

### ●社会福祉学入門 三浦 剛 仙台

- ・福祉の勉強をしようと思ったのは、自分の仕事に福祉の知識が必要だと気づいたからです。そもそも福祉が何なのか全く知りませんでした。教科書を読んでも何となくのイメージしか無かったのですが、今回受講して分かってきました。初心者として受けてよかったです。今後障害者についての勉強もしようと思います。
- ・精神保健福祉士の受験対策として受講しました。社会福祉の生まれた背景と変遷は多くの科目に共通の知識であり、頭の中がすっきりしました。多くの学生に、導入知識ばかりでなく、まとめとしても受講することを勧めたい。

### ●基礎演習 寺下 明 仙台

- ・2年生になってからの「基礎演習」だったが、レポートの書き方やスクーリング時の宿の情報交換など有意義な情報を沢山得ることができた。1年生の初期に受講しておけばよかった。
- ・初対面の方が殆どでしたが、すぐに打ち解けいろいろな話をするのができ、グループワークを通じて、講義形式では難しい大切な仲間に出会うきっかけとなりました。

### ●福祉リスクマネジメント 菅原 好秀 仙台

- ・丁寧な説明で判例をイメージしやすいような例示を出していただき理解しやすかった。「相当因果関係」について、どこまでを考えるのか、また考えることを満たしていくことで、リスクを減らすことができるのかなど、今後の課題を発見した。
- ・リスクマネジメントは、毎日現場で起きることなのでとても興味があった。実際のケースをやったことで、身近に感じ考えさせられた。